

ECOSOC YOUTH FORUM 2019

事業報告書



J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability



目次

Executive Summary	2
プログラム	2
具体的なスケジュール	2
背景	2
持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム (Japan Youth Platform for Sustainability)	2
UN Major Group for Children and Youth	3
ECOSOC Youth Forum	3
JYPS派遣団員名簿	4
スケジュール	5
4月7日	5
4月8日	5
4月9日	9
サイドイベント	11
Networking	13
広報活動報告	14
広報戦略概要	14
SNSやホームページを通じた発信	15
広報戦略 改善点	22
成果	22

Executive Summary

2019年のECOSOCユースフォーラム（以下ユースフォーラム）は、4月8日と9日の2日間にかけてアメリカ合衆国のニューヨークにある国際連合本部で開催され、Japan Youth Platform for Sustainabilityからは4名を派遣しました。また会議前日の4月7日と会議翌日の4月10日にはUN Major Group for Children and Youth（以下UN MGCY）とのミーティングにも参加しました。ユースフォーラムは、世界中から集まったユースの参画を促進し、さらにハイレベル政治フォーラムでも議論される内容について理解を深める大変良い機会であり、今回の会議を受けてのECOSOC総裁による成果文書は今年のECOSOCの公式報告書の一部となります。今年のユースフォーラムは4月上旬の開催となり、昨年開催時期とは2ヶ月ほど遅れての開催となりました。

プログラム

具体的なスケジュール

背景



持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム (Japan Youth Platform for Sustainability)

持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム(英語名: Japan Youth Platform for Sustainability (以下: JYPS))とは、2015年に国連で採択された「ポスト2015開発アジェンダ」やその他国連で行われているさまざまな枠組みを作るための議論に向けて日本の若者の声を集約し、政策として日本政府や国連機関、そのほかの市民社会にその声を届けていくための「場」です。代表はなく、選出される幹事及び事務局のもとで若者の「アドボカシー（政策提言）」として、キャンペーン、イベント、記事掲載その他を通じて、さまざまなバックグラウンドをもつ若者の声を実現していくためにあります。30歳以下の個人または、そのような個人で構成される団体、もしくは30歳以下の若者と働く団体であれば、だれでも参加することが可能です。

実際にJYPSはこれまで国連および日本国内における持続可能な開発やそれに関する会議へと参画してきました。国際面ではG7伊勢志摩サミット、HLPF、APEC、TICAD等、国内面では

ODA政策協議会、日本政府によるSDGs国内時指針・骨子の制定プロセス等への参画を行っています。2017年のハイレベル政治フォーラムには、日本人ユースを10名派遣し、日本政府の自発的国別レビュー(Voluntary National Review: VNR)の際にはこれまでSDGs国内実施のプロセスに関わってきた市民社会の若者プラットフォームとして、そして国連子どもと若者メジャーグループ(UN MGCY)の一員として代表理事の小池宏隆が岸田外務大臣(当時)に対して意見を述べました。ユースフォーラムには2018年に引き続き第二回目の参加となります。



UN Major Group for Children and Youth

国連子どもと若者メジャーグループ (UN MGCY) は、1992年に採択されたアジェンダ 21に基づき、持続可能な開発を進めていく上で、意思決定に関わらないといけない重要な社会の構成員であるメジャーグループと呼ばれるグループの一つです。このようなメジャーグループは、「子どもと若者」の他に8つあり、合計で9つが国連で定義されています。UN MGCYは子どもと若者の国連の持続可能な開発に関する交渉における参画を調整し、代表制ある声を届ける、国連における公式な子どもと若者参画枠組みです。



ECOSOC Youth Forum

2019年4月8日(月)と4月9日(火)の2日間に渡り、アメリカ合衆国のニューヨークにある国際連合本部でECOSOCユースフォーラムが開催されました。

ユースフォーラムは世界中から集まったユースたちが、政府の代表者や各国ユースの代表、政策担当者、その他ステークホルダーたちと関わり、地域レベル、国レベル、国家間レベルで政策の枠組みやイノベーション、ユース参画、レジリエンスの強化、持続可能性などについての意見を交わす場です。(参加団体リスト)



今回のユースフォーラムでは、2019年のHLPFのレビュー対象に合わせて以下の6つのゴールを中心に若者の参画の重要性について議論が行われました。

SDG 4: すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

SDG 8: すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

SDG 10: 国内および国家間の格差を是正する

SDG 13: 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

SDG 16: 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

SDG 17: 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

JYPS派遣団員名簿

名前	Name	役職
加戸 菜々恵	Nanami Kado	ニューヨーク支部統括
幾田 歩未	Ayumi Ikuta	Advocacy
菊田 礼	Aya Kikuta	Advocacy
新 武志	Takeshi Atarashi	Publicity

スケジュール

4月7日



他国で活躍するJYPS局員との再会



ストラテジーミーティングの様子

ECOSOCユースフォーラム前日である4月7日には、翌日からの会議に備えたストラテジーミーティングがニューヨークにある国連人口基金(UN FPA)でUN MGCY主催のもと開催されました。ミーティングではユースフォーラムやUN MGCYやSDGsについての基本的な知識の共有、またそれぞれの参加者が持つ知識を共有し、今回の会議を今後のユースアドボカシーに活かしていくための手段を話し合いました。メインセッションとグループセッションに分かれたストラテジーミーティングでしたが、グループセッションでは、アドボカシーの方法、正確なデータ収集の重要性、各SDGsに対してイベントでの啓発方法などについてのセッションを行いました。

4月8日

OPENING SESSION

オープニングセッションでは、まずはじめに各国から集ったユースへ、議長からメッセージが届けられました。「アジェンダ2030は、ただ各国で共有されているアジェンダではありません。これは、アクションを起こしていく私たちの協力計画です。そしてあなたたちユースが、地球をより公平で平和な未来に導く担い手なのです。」という力強い言葉が印象に残っています。ユースが、様々な世代がこのような国際的な議論に参加し、「世界づくり」に関わり、声をあげていくということはとても大切なことなのだと再確認しました。

続いて、国連特使 (Secretary General Envoy on Youth) から『Don't come with a speech, come with a plan. スピーチではなく、プランを。』とのお言葉が。若者という小さく、そして大きな立場、視点からアクションの元になるプラン作りを協力し合い、担っていく決意を新たにしました。

PLENARY SESSION

各国から集まったユースの代表や政府関係者が、各ゴールの達成に向けた各自の取り組みや成果を発表する時間が設けられました。若者の活躍や積極的な参画を求める声が各分野からあがっていました。「ただ次世代のために発展をしていくだけではなく、若者ととも、若者たちによる発展を」というデンマークユース派遣団の言葉が、このユースフォーラムの本質をとらえているように感じました。

BREAKOUT SESSIONS : 地域別セッション

アフリカ

アフリカでは、教育を受けた若者が増えてきているにもかかわらず、植民地時代から蔓延る政治体制と年長者優位の風潮が社会の変革を妨げている、というテーマのもとで活発な意見交換が行われました。教育が組織変革の要であるという認識は定着しているものの、教育を受けた若者が安定した職を求めて国外へ流れていることが、アフリカが現在直面している最も大きな課題のようです。政府が国内の労働環境や賃金の安定化へ向けた取り組みを進めることが、今後のアフリカの発展には欠かせないと言えるでしょう。難民、環境問題、紛争、貧困など多くの問題が複雑に絡み合うアフリカの未来は、いかに若者を社会に組み込んでいけるか、そしてどれだけ多くの若者の声を拾い、政府が彼らの意見を聞き入れていけるかに、左右されているのです。

ヨーロッパ・北米

ヨーロッパでは、「Empowered, Included and Equal（権限を付与する、含める、平等である）」をテーマにSDGs4、8、10、12、16、17について議論しました。はじめに、モデレーターが陳述したことに対して、参加者が賛成なのか反対なのかそれぞれの私見から意見を述べました。ステートメントの例として、「持続可能な開発目標を2030年までに達成するために私の国の政府は、政策にSDGsを反映している。」、「私の国の政府は誰一人取り残さない政策を十分に取れている」、「差別は若者を分裂する問題である」、「テクノロジーは私たちに権限、包括性、平等性を与えてくれるか」等がありました。次に参加者を4つのグループに分け、テーマ別に問題点とそれを解決するための施策について発表しました。一つ目のグループは、教育についてで、問題点として、不平等なアクセシビリティ、インスティテューションの限界収容人数、教育者の質、都市部と地方の機会の不平等、教育におけるライフスキルの欠落等が挙げられました。解決策としては、生涯学習とデジタル化について述べられました。次のグループは、若者の失業について発表しました。問題点として挙げられたのは、ワークライフバランス、ニートの増加、経済移民、気候変動、テクノロジーで、解決策として、労働政策の決定プロセスにおける若者の意見の反映すべきだと述べました。3つ目のグループは、気候変動について発表し、解決策として、気候変動の認知度を上げて、互いに協力し合える環境を作ること、また、若者がアクションを取ることを促すためのインセンティブシステムを確立する、メディアに協力を要請して再度政治問題化することによって消費者行動を変えるといった意見がありました。4つ目のグループは不平等について、少数派グループに関する認知度の低さ、都市と地方の機会の差、頭脳流出等が不平等を広がる要因だと指摘しました。解決策としては、少数派を「少数派」とカテゴライズするのではなく具体的にどのような人々がいるのかを話す

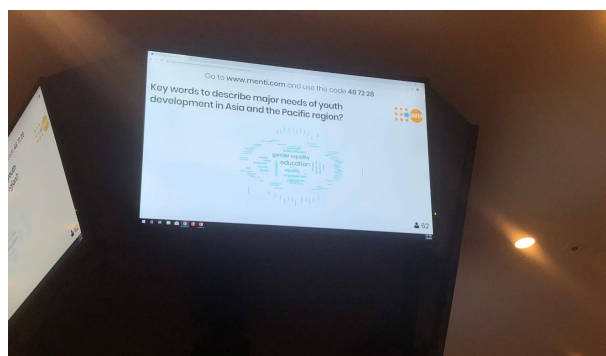
ようにする、多様性を学校教育の中で推進していく、デジタル化、人権の保護が提案されました。5つ目のグループは、ユースの声と権利について議論し、教育にアクセスがないこと、低所得の若者も意思決定プロセスに参画を促すファイナンスの欠落、政府の若者に対する十分な認知の欠落等が挙げられました。解決策としてデータの収集、市民社会との協力体制の整備が提案されました。最後に、4つのグループに分けられ、若者がこれらの問題と解決策を鑑みたと上で、どのようなアクションを取れるか、政府が何をできるか議論しました。

中南米諸国・カリブ海諸島

中南米諸国・カリブ海諸島では、グループディスカッションとそれぞれが考えるSDGsに対するエリア別の問題についての話し合いがありました。中南米諸国・カリブ海諸島のエリア別セッションのテーマとして、若者がさまざまなエリアで抱えている不平等をどのようになくし、若者のSDGs参画を促し、またエンパワーメントを引き出すことができるのかについてを中心に話し合われました。特にこの地域では若者の人口層が著しく大きいことから若者の社会問題に対する協力の促進とその環境作りが今後の大きな鍵となることを強く全体で共有していました。社会全体の中で若者が参画できる「場」というのはまだまだ限られています。その中で少数の若者以外が全体を動かすのではなく、若者やその他のステークホルダーを参画させた多数で社会を動かすことの重要性とその方法についての意見交換が行われました。

アジア・太平洋地域

アジア・太平洋地域は、ディスカッションベースで、menti等を使った全員参加・発言型のセッションでした。この地域でもっとも必要な変化とは、若者を巻き込むために何をしていくべきなのか、意見交換をしました。各国が最も重要視しているゴールと、それに対する具体的な取り組みについて発表がされました。多くの国で女性のエンパワーメント、教育の普及、そして島国が多い地域性もあり気候変動による影響とその対応策について重点がおかれている印象を受けました。議論で得た解決策をグループに別れ、ポスターを制作し、最後に発表しました。



アラブ諸国

派遣なし

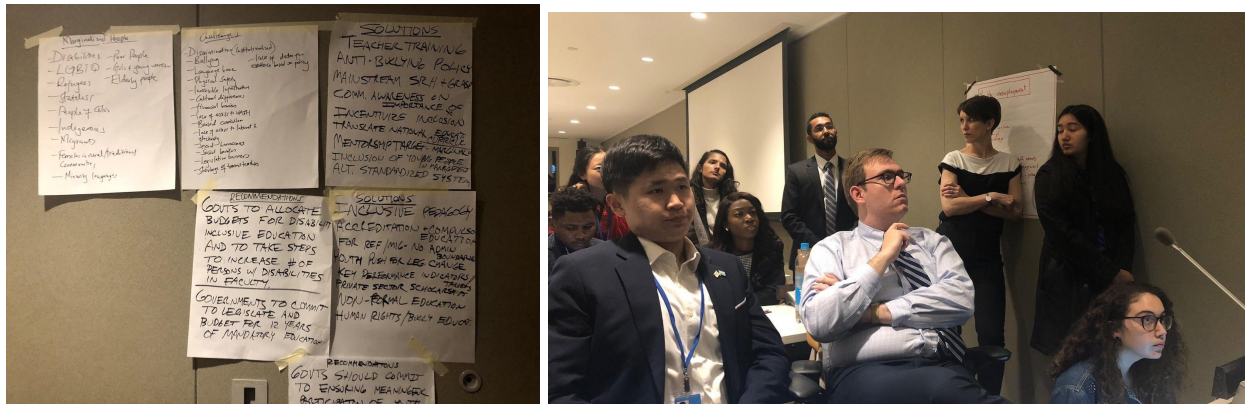
BREAKOUT SESSIONS : 目標別セッション

SDG 4: すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

- 「教育に関する法整備」
- 教育の普及と平等な教育機会の提供

- 21世紀に置いて必要な教育スキル
- ユースのエンパワーメント

のテーマ別に4グループに別れ、「具体的に各政府に提言を行うとしたらどのような勧告・政策提言を行うか」というディスカッションを行い、最後にグループ別に発表し合いました。



各国それぞれで迫害され、教育機会を奪われてきたコミュニティ、また迫害を続け教育の機会を奪いつづけている政府・その他の団体に対し、どのように教育の必要性を訴えていくか、どこまでの強制力を持つべきか、また教育のレベルの水準はどのような観点を元に設定されるべきか、など、それぞれの国における状況、過去の事例にも言及しながらより良い解決策を練るための意見交換が行われました。

SDG 8: すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）は雇用の創出（仕事へのアクセス）、社会的保証の拡充、仕事における権利の保証と社会的対話の推進の四つから構成されます。つまり、人として尊厳を保ちながらできる生産的な仕事を指します。国際労働機関はILOのディレクターであるGuy Ryder氏を筆頭に#myfutureworkキャンペーンを実施し、若者が将来どのような仕事・働き方を望むのかを積極的に発信していくことを促しました（

<https://twitter.com/GuyRyder>）。次にエレナ・ディーク氏のスピーチの中で、現在国内総生産（GDP）の指標で表されていない活動（無給の仕事、ボランティア等）を示す指標が必要だという提言がありました。またオースティン・マルバート氏は世界の5人に1人が労働力から切り離されていることを強調し、生涯学習の重要性を訴えました。これらの内容を踏まえて、その後参加者はグループに分かれ、GDPを超えて（Beyond GDP）、若者のディーセントワークへの推移（Youth transitions to decent work）、信用の再構築（Rebuilding trust）の3つのテーマに関して議論しました。

SDG 10: 国内および国家間の格差を是正する

各国で実際に行われている達成に向けた取り組みと、重要視していることについて意見交換がされました。特に女性の受ける格差、移民や難民が受ける格差についての意見・提言が多く、どのようにエンパワーメントをしていくのか、どのようにその機会を作り出していくかに焦点を当てた議論が行われました。その後、グループに別れ、ゴールを達成する上でいま直面している問題を述べつつ、全体のグループディスカッションより詳細に何が必要なのかを話しあ

い、最後に全体で発表することで意見をまとめました。法律上で結婚可能年齢の引き上げを行う、公衆衛生の一環として避妊具をより簡単に手に入るようにシステムの整備をしていくなどの具体的な提案が出されました。

SDG 13: 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

第一部「Awareness (自覚)」、第二部「Action (行動)」と大きく二つにテーマを分けて行われた気候変動に関するセッションでは、Climate Justice (気候変動の影響の不平性)に焦点を当てた議論が行われました。気候変動の影響を直接的に受けやすい地域や世代を明確にし、その上で、個人ができること、政府が取り組むべきこと、そして政府に訴えるために実際に何ができるのかという三点で意見交換を行いました。先進国が利益を独占し、途上国が気候変動の代償を支払っており、気候変動の影響を最も受けるのは、若者、そしてこれから生まれてくる子供たちなのだという指摘が多く挙がりました。解決策として、産業汚染の取り締まりや環境問題や気候変動に関する学校教育の徹底が提示され、長期的な視点で物事を見つつ、今すぐに行動することの必要性が訴えられました。

SDG 16: 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
派遣なし

4月9日

PLENARY SESSION 1 : 意見交換ラウンドテーブル : 「若者の発展への投資- 資金供給と有意義な実行へ向けて-」政府代理人とその他のハイレベルスピーカー、そして若者団体代表を交えて

ECOSOC ユースフォーラム 2日目の初めのプレナリーセッションでは、若者人口が歴史上最大に膨れ上がっている現代社会でSDGs達成のために若者とのようにして参画するのか、各国の実際の取り組みや直面している問題などを各国の代表や若者団体が提言しました。若者の社会に対する重要性を再度確認した上で、特に仕事の雇用機会、若者がビジネスへ関与する機会、教育を受ける機会など、SDGs達成の資金運営のなかで若者が参画することのできる様々な機会についてのアプローチ方法が話されました。各国代表や若者代表が自国のプログラムや基金を生かしてどのように若者を資金のサイクルに参加させることができるのか、質疑応答を交えながら意見を交換しました。



「若者、平和、そして安全 - 挑戦と可能性 -」についての意見交換

人権を守ることは、SDGsが作られる上での前提条件、そして地盤となっています。特に今回のセッションではマイノリティーグループや若者の人権を守るための平和構築や安全保障について各国代表や若者代表が意見交換を行いました。若者が介入することによる有意義で持続的な平和と安全構築の達成について、経済や政治の側面と照らし合わせながら話し合いました。特に平和や安全を維持させるための若者への機会の供給、若者に対するリーダーシップ推進プログラム、そして政府やプライベートセクター組織内への若者の参画などについての意見交換をそれぞれの代表が行いました。

PLENARY SESSION 2 : 意見交換ラウンドテーブル : 「ハイレベル政治フォーラムSDGsサミットでの意見交換」を見据えて

今回のセッションでは、セッションモデレーターを中心に各題に合わせてオープンに発言していくという形式が取られました。前日4月8日の各ゴール別でのブレイクアウトセッションを基にした文章がMGCYを先導とした若者団体から発表されたことに加えて、各国が今年HLPFにてレビュー対象となるSDGsに対する実行面についての言及が各国や他若者団体からされました。特にテクノロジーや政府のポリシーに対しての若者の参画についての重要性など現代社会で若者の参加する機会の少ないものに対してのプログラムや計画について頻繁に意見が交換され、若者が幅広く社会で参画することについて提言されました。



PLENARY SESSION 2 : ハイレベル政治フォーラムSDGsサミットに向けてMs. Amina Mohammed, Deputy Secretary Generalとの意見交換

ここでは、前日4月8日の各エリア別でのブレイクアウトセッションを基にした文章がMGCYを先導とした若者団体から発表されました。それに加えて前セッションと同じく、各国や若者代表が各題に従ってオープンに発言しました。セッション中には、若者が先導する実際のアクションや政策に対する若者からの勧告、国連に焦点を当てた時のより良い若者参画への改善点や取り組みなどについてモデレーターからいくつかのお題が出され、若者が直面している参画での難点、自国での若者参画の促進方法について各国代表や若者代表が発言しました。この

セッションにてわたしたちJYPS派遣団からは、ニューヨーク支部統括の加戸菜々恵が日本政府と日本の若者の取り組みについて発言することができました。

発言



セッション中にて発言する加戸

最後のプレナリーセッション2の意見交換「A dialogue with Ms. Amina Mohammed, Deputy Secretary General on the HLPF (SDG) Summit」にて、JYPSニューヨーク支部統括の加戸菜々恵が次世代プラットフォームとして発言しました。最後のセッションでは議長からの質問に答えるかたちが取られ、私たちはその中で質問内容「How can the United Nations system better support, expand and leverage youth participation in the implementation, follow-up and review of the 2030 Agenda and allow for strengthened participation? (どのようにして2030アジェンダ達成の実施と参加者の強化に向けて、国連システムがより良いサポートや参画を生み出すことができると思いますか?)」という質問に対して、日本の若者との実際の取り組みについて回答しました。回答に対する制限時間は1分で、元々の3分を前提に作成されたステートメントを大幅に削るかたちになりましたが、SDGs推進本部の設立とSDGs推進本部によるSDGsアクションプラン2019の策定の中で、若者や様々なステークホルダーとの参画とそれらの声の強化の重要性を、他国の次世代との意見交換の重要性も交えて強調しました。

サイドイベント

JYPS主催のサイドイベント

準備段階：準備段階では、

参加国：国連日本政府代表部と連携を取りながら、地域別代表の政府関係者と若者代表派遣にイベントの参画を促しました。ECOSOC YF直前まで参加が不確定な代表が多かったですが、結果的に、国連ドイツ政府代表部、ドイツのユース代表、国連アラブ首長国連邦代表部、国連タイ政府代表部、タイのユース代表、LASのユース代表が参加することが決定しました。国連

日本政府代表部からは星野親善大使が、ユース代表からは加戸、新、幾田、菊田が参加しました。

コンセプトノート：コンセプトノートにはイベント開催の背景、イベント名、目的、目標、開催場所、時間配分等を明記しました。また、各国のプレゼンテーションの指示として、1) 国際から見た自国の持続可能な開発目標(SDGs)の進捗、2) 国内から見た自国のSDGsの進捗と取り組み、3) SDGs達成を促す若者主導のプラットフォームの構成と政府との協力体系、4) 若者のSDGs達成のための参画を促すプラットフォームとしての仕組み、を含める事を提案しました。

パワーポイント：ドイツのユース代表と日本のユース代表のみパワーポイントをイベント前日に統合しました。その他のユース代表は上記の内容について、スピーチのみ行いました。イベント前日まで参加国が不確定であったため、全ての参加国からパワーポイントを受け取ることはできませんでした。あらかじめコンセプトノートに締め切り日と提出先を記載しておくことで、連絡が直接ついてから話す手間と時間が省けると考えます。また、今回パワーポイントの有無は各国ユース代表が決定していましたが、テーマが複雑で図を用いた方が参加者の理解を深めることになるため、基本的にはパワーポイントを用意してもらう方針が適切だと考えます。

フライヤーとRSVP：イベントのフライヤーを作成し、SNSを通して広報、当日のイベントで配布等をしました。フライヤーの完成にも参加国が不確定であったため、時間がかかり、イベントの広報期間が著しく短くなってしまいました。改善としては、ある程度フライヤーが完成次第イベントがあることの広報を行い、後に修正をすることです。また、RSVPに関してはメールアドレスだけでなく、QRコード、或いはイベントページを開設し集客する必要があると考えます。

ECOSOC YOUTH FORUM Japan, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology J.Y.P.S.

INSTITUTIONAL YOUTH ENGAGEMENT IN ACHIEVING THE SDGs

-Youth Actions and Voices -

APRIL 8, 2019 13:15-14:30
UNHQ CR-E

EVENT TIMELINE

Welcome and Introduction

"Opening Remarks and Introduction to Japanese National Activities on Engaging Young People,"
Dr. Toshiya Hoshino, Deputy Permanent Representative, the Permanent Mission of Japan to the UN

"Overview of Japanese Youth Activities and Advocacy by Youth Representative of Japan,"
Mr. Takeshi Abarashi, Japan Next-Generation Platform for Promoting SDGs,
Japan Youth Platform for Sustainability

Presentations by

Mr. Jürgen Schulz, Deputy Permanent Representative, the Permanent Mission of Germany to the UN
Ms. Rebecca Freitag, Youth Delegates of Germany

Mr. Saud Al Shamsi, Deputy Permanent Representative, the Permanent Mission of UAE to the UN
Youth Representative of UAE (TBC)

The Permanent Mission of Thailand to the UN
Youth Representative of Thailand

Open discussion

Q&A Session/ Networking

Closing by

Dr. Toshiya Hoshino, Deputy Permanent Representative, the Permanent Mission of Japan to the UN

RSVP at ts0318a@student.american.edu (Takeshi Abarashi)
*Eligibility: ECOSOC Youth Forum participants

Organized by Japan Next-Generation Platform for Promoting SDGs and Japan Youth Platform for Sustainability/ Sponsored by Government of Japan

当日の流れ :

プレナリーセッションを少し早めに抜け、派遣員の数名は会場の設営に向かいました。具体的には国連日本政府代表部とプロトコルオーダーに沿って席の配置、プレゼンテーションの順番を決定し、JYPSの団体フライヤーとイベントのフライヤーを配りました。また、参加者情報を取得するために、事前に参加登録をしていない人に向けて、グーグルスレッドを埋めるよう聞いて回りました。またユース代表に挨拶に回り、会議室の前で広報、宣伝を行いました。今回のサイドイベントは、各国の持続可能な開発目標 (SDGs) 達成のための若者の参画を促すメカニズムについて共有し、それを自国のメカニズムと比較することで互いから学び合い、各国のユースの声からSGDsを達成するためのシナジーを生み出すことを目的としました。はじめに星野親善大使からイベントスピーカーとしてお話いただいた後、日本のユースが発言し、国連政府代表部、ユースの順に、ドイツ、タイ、アラブ首長国連邦、LASが発言しました。一通り参加国の全員が話終え、質疑応答に移った後、ネットワーキングの時間として会場を開きました。

Networking

団体紹介フライヤーとアンケート作成

JYPS団体紹介のフライヤーを作成し、会議期間中に各国のユース団体に配布しました。また、コネクション作りの一環として、他団体の情報を収集するためにアンケートを作成、QRコード付きのカードを手渡し、アンケートに回答してもらいました。今回集めた情報は、今後の活動に役立てていきます。反省として、QRコード付きのカードを渡すだけでは回答率が低いということが分かりました。次回以降は、もう少し深く、手軽に行えるアプローチが必要かと思えます。

J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability

Who We Are

JYPS is a Japanese self-organized space for young people to engage in certain intergovernmental and allied process at the local, national and international level.

Vision

JYPS aims for a world where equal opportunities are provided for all to reflect their opinion on different policies for a more fair and balanced society.

Mission

This platform aims at an open, transparent, and democratic space where youth could plan, design, implement, monitor, review and evaluate sustainable development policies.

What We Do

- International Advocacy:** JYPS provides youth in Japan with access to various international and domestic conferences on sustainable development.
- Policy Proposal and Coordination:** We coordinate with different youth organizations in Japan that specialize in different areas, to expand the collective knowledge and to build robust policy proposals.
- Campaign:** We share sustainability-related information to raise public awareness and their engagement that are key to realizing the 2030 agenda.

Past Events (Examples):
JYPS SDGs Night, Kansai Youth Agenda "Youth and SDGs", A Study Tour at Fukushima Powerplant, Japan Youth Platform for Sustainability General Meeting, G7 Youth Summit

Future Event:
G20 Youth Summit, Online Study Group, etc.

Contact Information - Follow US -

@JYPS2030 @JYPS2030 @JYPS2030 <https://japanyouthplatform.wixsite.com/jyips>

実際の団体紹介のフライヤー

国連日本政府代表部との会談

今回のECOSOC ユースフォーラムにて、サイドイベントにスピーカーとしても来ていただいた国連日本政府代表部の大使・次席駐在代表である星野俊也氏をはじめとし、国連日本政府代表部の方々よりお話を伺う機会がありました。私たちJYPSは日本政府が設置した「次世代のSDGs推進プラットフォーム」の一員であることから、日本の次世代を担う若者とのネットワークや参画の輪を継続して拡大し今後どのように若者と一緒にSDGs達成を促進していくことができるのか、現段階での課題とこれからの可能性を考えながら議論しました。国連日本政府代表部の方々からは、日本の若者の重要性とこれからも積極的に若者と協力してSDGsの達成に努めていきたいとの多くのご意見をいただきました。これらの議論を通して、現段階での若者とそのほかのステークホルダーとの平等を目指すためにまずは若者全体の意見をどのように集めるのか、そしてそれをどのように反映させるのかについて、「まずは」できる範囲で立ち止まらず実行し続けることの重要性を再確認しました。



国連日本代表部大使・次席駐在代表である星野俊也氏を中心にJYPS派遣団との写真

広報活動報告

広報戦略概要

広報戦略として、

- ECOSOC ユースフォーラムを通じて国連やユース参画などを身近に感じてもらうこと
- SDGsやECOSOC ユースフォーラムの認知度を向上させること
- JYPSの活動に興味を持ってもらえるような発信をすること
- ECOSOC ユースフォーラムで開催するサイドイベントを英語で広報する

の4点を目的に活動しました。

SNSやホームページを通じた発信

SNSやホームページを通じた発信として、ブログ（HP）、Twitter、Facebook、Instagramで発信を行いました。ブログに投稿した記事を各SNSでシェアするなどの連携も行いました。また、#ecosocyouthforum、#youth2030などのハッシュタグを活用し、連携団体との繋がりも意識して情報の発信を行いました。

ブログの運用

ECOSOC ユースフォーラムの2日前である4月6日から、ユースフォーラムに関する基本的な背景となる知識、Youth Blast、ECOSOC ユースフォーラムで行われた議論、サイドイベント等をブログを通して報告・発信しました。ブログは日本人を対象に日本語で記しました。また、派遣団全員で執筆し、写真を多く取り入れながらブログを投稿しました。また、機械的にブログを書くのではなく、読み手が面白く読めるようブログの内容に個性のできるように心がけました。

改善点としては、①ブログのタイトルをより魅力的にすること、②ブログを発信する時間帯をより明確にすること（日本時間に合わせると良い）、日本語のみならず英語でも発信することの3つが挙げられます。また、英語で発信した際には、他のユース、組織との交流をタグ付けることで、世界中のより多くの人にJYPSの広報に目を向けてもらえると考えます。

ブログ記事一覧

#	タイトル
1	【ECOSOC Youth Forumとは？】 2019 レポート Vol.1】
2	【UNの中でサイドイベント開催予定！ユースのアクションと声】 ECOSOC YF 2019 レポート Vol.2】
3	【0.5日目：MGCY Youth Blast】 ECOSOC YF 2019 Vol.3】
4	【ECOSOC Youth Forum 2019 Vol.4 1日目】
5	【ECOSOC Youth Forum 2019 Vol.5 2日目】
6	【ECOSOC Youth Forum 2019 Vol.6 イベント開催 in NY国連本部】
7	【ECOSOC Youth Forum 2019 レポート Vol.7】

ウェブサイト：<http://japanyouthplatform.wixsite.com/jyps>

【ECOSOC Youth Forumとは?】 ECOSOC YF 2019 Vol.1】

April 6, 2019



昨年と同様、今年も持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability : JYPS）メンバーはECOSOC Youth Forumに参加し、現地から情報をお届けします！ECOSOC Youth Forum 2018のブログはこちらから！

ECOSOC Youth Forum (エコソックユースフォーラム; 以下ECOSOC YF)とは、各国から集まったユースが、世界が現在直面している課題について話し合い、ユースとしての意見やアイデアを交わす国際的な“場”です...

【UNの中でサイドイベント開催予定！ユースのアクションと声】 ECOSOC YF 2019 Vol.2】

April 6, 2019



皆さんこんにちは！ECOSOC Youth Forum 2019にて私たち 持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability : JYPS）はSDGsを推進する日本の次世代プラットフォームとして、日本政府と “Institutional Youth Engagement in Achieving the SDGs- Youth Actions and Voices-”というサイドイベントを開催します。今回のブログではこのサイドイベントについてご紹介いたします...

【0.5日目：MGCY Youth Blast】 ECOSOC YF 2019 Vol.3】

April 8, 2019



こんにちは！持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability : JYPS）NY支部派遣団の加戸菜々恵です。

今回はECOSOC YFを前日に控えたニューヨークでのUN Major Group of Children and Youth (以下：MGCY) の事前ミーティング（Youth Blast）についての記事です！

現地には早朝にワシントンD.C.からPublicityの新、そしてアップステートニューヨークから支部統括の私加戸が到着し、まずは朝食を済...

【ECOSOC YF 2019 Vol.4 1日目】

April 11, 2019



こんにちは。持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability：JYPS）ニューヨーク支部政策局員の幾田歩未と菊田礼です。今日は、イベント盛りだくさんだったECOSOC Youth Forum 1日目について私たちがレポートしていきます。

ECOSOC Youth Forumとは？と思った方は[こちら](#)をのぞいてみてくださいね！

それでは、スタートです！

まずは前日から事前会議に参加していた、同じくニューヨーク支部のメンバーである加戸、新と合流。およそ1年もの...

【ECOSOC YF 2019 Vol.5 2日目】

April 15, 2019



(Youth特設ボードの前で新・加戸)

こんにちは！持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability：JYPS）NY支部の派遣団の加戸菜々恵です。

ECOSOC YFシリーズも5弾目！今回はECOSOC Youth Forumの2日目についての記事です！

(1日目の様子はこちらから読めます！！)

世界各国からやってきた若者による若者のためのECOSOC Youth Forumも終盤。2日目は朝からChamber Hall（国連の大きな会議室の一つ）にこもり...

【ECOSOC YF 2019 Vol.6 イベント開催 in NY国連本部】

April 25, 2019



こんにちは！持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability：JYPS）NY支部の派遣団の加戸菜々恵です。お待たせしました！今回は、ECOSOC Youth Forum中に私たちが国連日本代表部と共同で開催したサイドイベントについての記事です。

ECOSOC Youth Forumや様々な国際会議にはそれぞれプレナリーセッション、ブレイクアウトセッション、などのセッションがプログラムとして組み込まれています。そのプログラムの中で、様々な国や機関が国連の...

Twitterの運用

TwitterではJYPS派遣団員が執筆したブログのシェア、サイドイベントの広報の他、会議の様子や発言などの実況を行いました。特にメインのセッション中にはそれぞれのスピーカーごとに印象に残ったコメントを写真と共にツイートし、ユースフォーラムのその場にはいない方々にもその場の雰囲気がリアルタイムで伝わるように心がけました。

ECOSOC期間中だけで30回以上のツイートを行い、最も多いものでは1ツイート当たり約2300のインプレッション（投稿が見られた回数）を記録しました。4月1日から4月14日の間では、平均エンゲージメント率が2.0%、合計クリック数が90、リツイート数が33、いいね数が145に及びました。また、この間1日あたり平均インプレッション数は約1500でした。

プレナリーセッションの同時ツイートの内容には、ユースの行動を促す・啓発するものが多い傾向がみられます。翻訳に関しては、簡潔に、言語だけでなく雰囲気も伝えられるよう高いレベルで日本語訳ができていると考えます。



フォロワー数は2018年4月1日の時点から30人増え現在525人まで増加しました。

Facebookの運用

Facebookでは、JYPS派遣団と国連日本政府代表部が開催したサイドイベントの広報、イマココラボのサイドイベントの広報、JYPS派遣団の執筆したブログのシェア、他アカウントの投稿のシェア等を行いました。

投稿の平均リーチ数は1000人、最大1808人を記録しました。基本的に、シェア数やいいね数の多いものがリーチ数が多い傾向にあり、それぞれ相関関係にあると考えられます。ただし、誰がシェア・いいねをしているのか、投稿の種類（イベントの告知、レポートのシェア等）、ヒットしやすいキーワード、トップ画像（人が写っている方がクリック数が多い）等、他の要素がどの程度影響をしているのかを見極めるのは難しいです。

過去28日間（3月31日から4月27日）でフォロワー数は87人、いいね数は81増加し、現在フォロワーが1950人、いいねが1853に上ります。

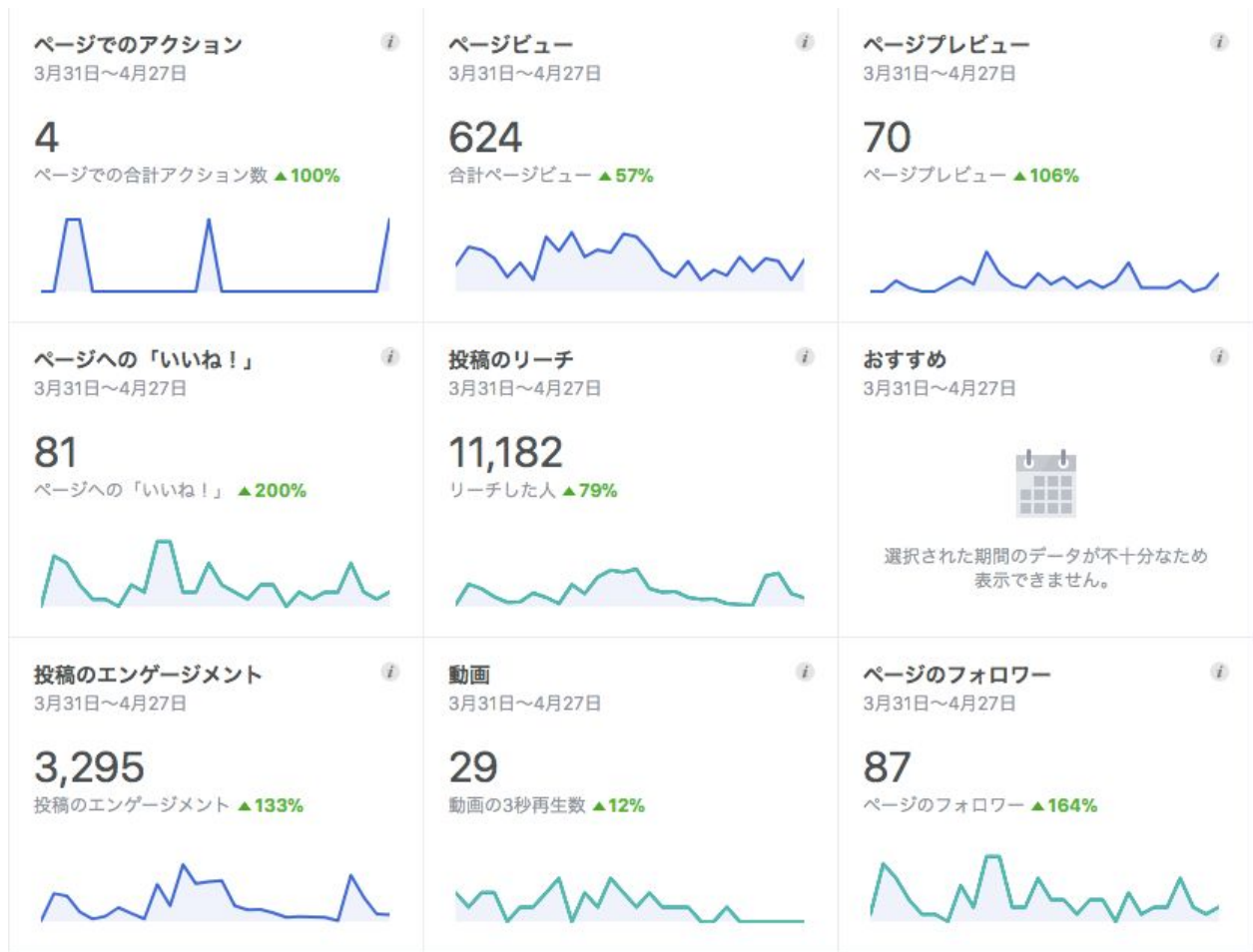
イベントを他のフェイスブックグループで投稿したことと言語を英語にしてイベントを広報したことによって、リーチ数とエンゲージメント数が確保され、新たなフォロワー、いいね数が増えたことも今回の広報戦略にあたって重要な点です。

投稿日	題名	言語	リーチ数	エンゲージメント数	いいね数	シェア数
4月1日	【SDGs World Simulating Card Game “2030 SDGs”	英語	1704	201	37	19

	Workshop】					
4月1日	【ECOSOC Youth Forum】	英語	525	28	6	0
4月2日	【ECOSOC Youth Forum Side Event】	英語	1271	126	48	14
4月6日	【ECOSOC YF2019 レポート Vol.1】	日本語	951	127	59	35
4月7日	【ECOSOC YF 2019 レポート Vol.2】	日本語	676	31	18	4
4月9日	【ECOSOC YF 2019 レポート Vol.3】	日本語	377	25	8	0
4月10日	Permanent Mission of Japan to the United Nationsの投稿のシェア	英語	445	66	13	0
4月11日	【ECOSOC YF 2019 レポート Vol.4】	日本語	1808	395	169	142
4月12日	【沖縄タイムスにも掲載されました！】	日本語	766	30	13	3
4月13日	【朝日新聞にも掲載されました！】	日本語	1330	41	24	6
4月13日	【外務省プレスリリース】	日本語	1610	169	74	49
4月15日	【ECOSOC YF 2019 レポート Vol.5】	日本語	953	87	29	9
4月25日	【ECOSOC YF 2019 レポート Vol.6】	日本語	371	16	7	0
	【ECOSOC YF 2019 噂のSDGs カードゲーム体験しました！】	日本語				

※リーチはユニークユーザーに対するインプレッション（投稿の表示）。

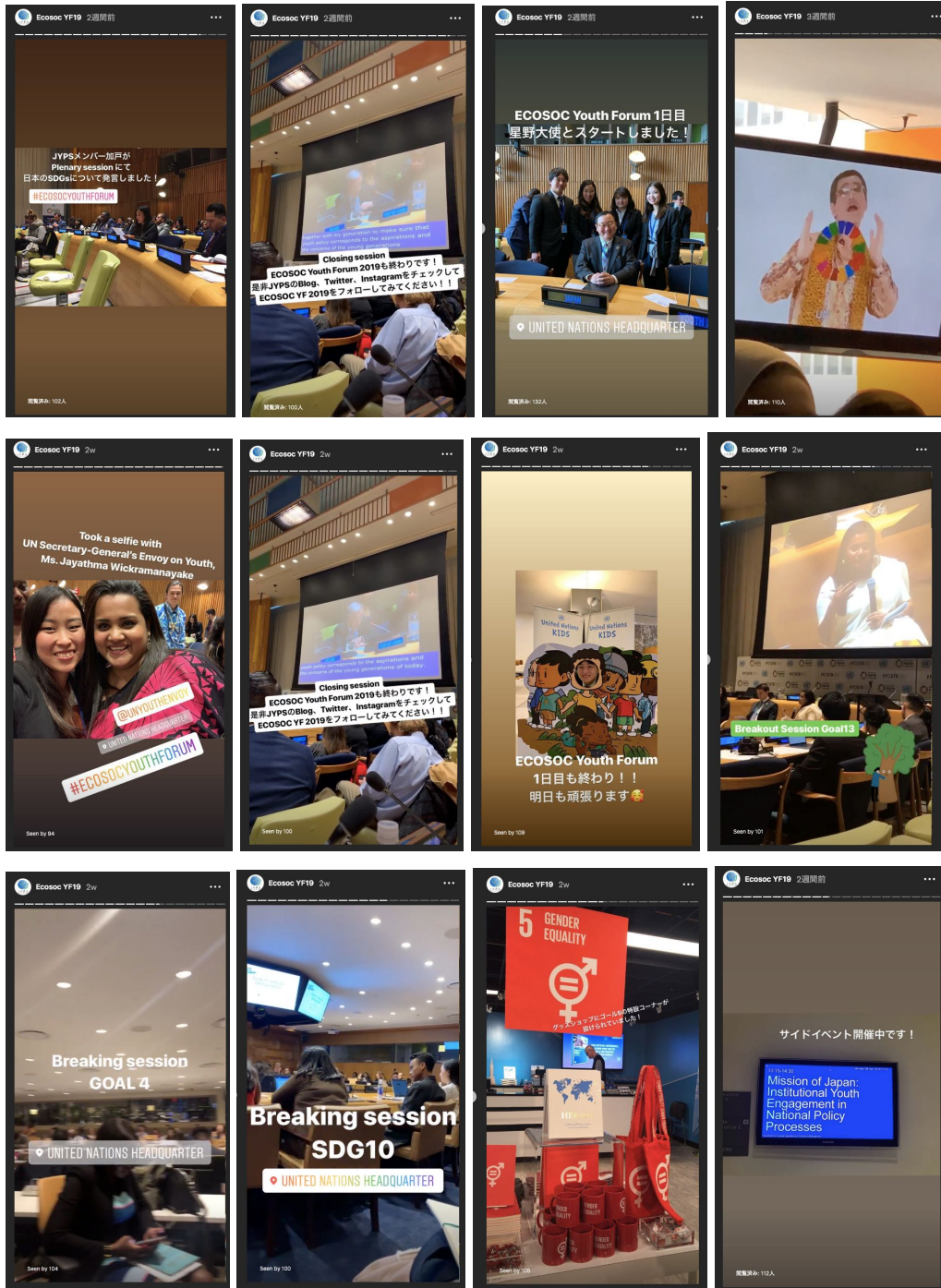
※エンゲージメントはポストのクリック回数にポストに対する行動（リアクション、コメント、シェア）を足したものの。



Facebookのフォロワー数は2018年2月10日の1479人から1950人と471人増加しました。(2019年4月28日現在)

Instagramの運用

Instagramではストーリー機能を活用し、ユースフォーラム中の派遣団の動きがリアルタイムかつ身近に感じられるように意識しました。ユースフォーラム期間中は3日間の21回投稿し、合計2318回閲覧されました。したがって、ストーリー1つあたりの平均閲覧数は110になります。



インスタグラムストーリー投稿例

また、ECOSOC期間中に2回に分けて行った投稿では以下の数値を得ました。

投稿日	題名	リーチ数	プロフィールへのアクセス	いいね数
1月30日	【Ecosoc Youth Forum Day1】	296	20	56

1月31日	【ECOSOC Youth Forum Day2】	302	34	52
-------	---------------------------	-----	----	----

Instagramのフォロワー数は2017年の7月開始時から、現在の553人まで増加しました。(2019年4月28日現在)

広報戦略 改善点

以前から情報発信するにあたって心がけている「即時性」と「顔の見える発信」を継続しました。次回の広報戦略として、今回の問題点を踏まえて、改善策を共有したいと思います（問題点→改善点）

1. 人員と時間の問題でブログの投稿が遅れました→派遣員の増加、遠方からの支援を拡充させました
2. プレナリーセッションでノートテイキングを優先してtwitterの投稿が遅れる、また、ネットワーキングを疎かになりました→UNTVを最大限に活用して、ECOSOC ユースフォーラムに参加できていない人が遠方からtwitter等に投稿することで、実際にイベントに参加しているメンバーにネットワーキングに集中してもらいます
3. Twitterのコンテンツの偏りがある→遠方からの支援により、より冷静に密度の濃い内容の投稿をする事ができると考えます
4. 日本語のみの投稿→日本を代表するYouth Platformとして海外からの認知も確保したい中、英語での投稿も重要になってきます。人手に余裕ができれば、英語で投稿もしていきます
5. サイドイベントの広報がECOSOC ユースフォーラム直前であった→国連日本政府代表部との連携にあたって、フライヤーの最終決定に時間がかかり、広報に遅れが生じました。ある程度フライヤーが完成次第投稿してしまっていて、後で修正を加えたものに編集し直す事を勧めます。
6. 他のユースプラットフォームのタグ付け、シェアの欠落→国際的にJYPSが他のユースプラットフォームとパートナーシップを築いていくにあたって、私たちが相手の組織を認識している事を示すことはとても重要になります。より良い関係づくりと、日本の若者に海外の若者がどのような取り組みをしているのかを伝えるためにも、積極的に他国のユースの活動紹介をしていきたいです。

成果

4月7日から9日までの3日間、私たちJapan Youth Platform for Sustainability (以下JYPS) からの派遣団はECOSOC ユースフォーラムに関わる中で、国際会議に向けてのアドボカシー戦略や今後のJYPS自体の運営と方針の見直し、そして他団体や国との関係性構築など、各国政府や若者団体を通じたネットワーキングや情報収集で達成することができました。また国際会議という場で他団体の若者や政府とより深く関わり、SDGsや持続的な社会の構築に対して私たち派遣団一人一人が国際的な視点から日本の若者として学んだことや発信したことも多くありました。JYPS派遣団は今回のECOSOC ユースフォーラムに参加した機会を十分に活かし、その場に参加することのできなかつた加盟団体や加盟員へより多くの参画を生み出すことを大きな目標の一つとしてブログを主としたSNSでの情報発信を行いました。今現在起こった情報からそ

の一日のレポートまで、日英両方でのSNSでの発信は多岐に及びました。加えて会議中の国連内でのサイドイベントの開催や国連日本政府代表部、星野親善大使との議論を通して、JYPSがプラットフォーム団体として持続可能な社会に向けた議論への参画と実際のアクションを日本の若者へ推進し、より大きなインパクトのあるアドボカシーを作り出すというJYPSの最重要目的を再確認をすることができました。わたしたち派遣団、そしてJYPSが今回の会議で得た経験や知識を加盟員にきちんと共有することで、7月のHLPFにも備えていきたいと思えます。今回のECOSOC ユースフォーラムにて、各国や各団体の間でなされた沢山の有意義な議論が机上のみに留まらず、そこから実行 (Implimentation) というフェーズ、そして持続可能な社会に向けた確実なインパクトを若者から若者へ生み出すことを最終的なゴールとしてJYPSは今後さらに力を入れて活動を続けていきます。

